

## 「新任のご挨拶」

関西学院大学総合政策学部 専任講師 西立野 修平

私にとって大学教員になることは、研究者を志した頃からの目標でした。この伝統ある関西学院大学で教壇に立ち、そして研究を続けることができる環境を与えて頂いたことにとても感謝しています。

私が学問の世界に足を踏み入れたのは、大学3年生（今から13年前）の時でした。当時、私は明治大学商学部の中村那詮ゼミに所属し、日本・シンガポール自由貿易協定の経済効果について研究していました。その時に出会ったのが経済学でした。部分均衡分析というシンプルなフレームワークで、自由貿易が国内の経済厚生に与える影響を説明できることを学び、とても感動したことを今でも覚えています。それ以来、学問の虜になり、ありとあらゆる分野の専門書を読み漁るようになりました。大学卒業後、名古屋大学経済学研究科に進学し、平川均教授の指導の下、修士論文「日本企業の国際化と生産ネットワークの構築」を執筆しました。これが、研究論文を書いた初めての経験でした。その時、自分は研究者に向いていると勝手に思い込み、研究者を目指す決意をしました（今論文を読み返してみると燦々たる内容なのですが…）。その後、一念発起して、Australian National Universityの博士課程に進学をしました。Athukorala教授の下、3年かけて博士論文「Global Production Sharing in the Automobile Industry: The Case of Japan」を書き上げ、2011年12月に同大学よりPh.Dを授与されました。その後、Australian National Universityと経済産業省に勤務した後、2014年4月より、本学部の専任講師に着任した次第です。

専門は、国際貿易と海外直接投資の実証研究です。博士論文では、日本の自動車産業に焦点を当て、企業のグローバル化が本国経済（特に、雇用、生産、輸出、生産性）に与える影響について研究を行いました。最近では、中間財のExchange rate pass-throughや中古財貿易とその影響について関心を持っています。交通経済学の分野でも研究を行っています。特に、自動車の普及に伴う外部不経済（交通事故、渋滞、大気汚染等）を最小化する上で価格政策が果たす役割について関心があります。現在は、高齢化と交通事故の関係について研究しています。

今後、研究面では国際学術誌への論文掲載を目指し、国際経済学と交通経済学の分野を中心に研究活動を行っていく所存です。研究の世界でもボーダレス化が進んでおり、国際学術誌への掲載数と論文の引用数が研究者自身の評価のみならず、学部や大学の評価に影響を与える時代になっています。教育面では、経済学や統計分析を“どう使うのか”という視点を大事にし、学生をinspireできるような講義や演習になるよう取組んでいきたいと考えています。経済産業省での実務経験から、学問は“使える”ということ、そして武器になるということを強く実感しました。最後に、社会貢献ですが、政策担当者との意見交換を通して、日本の政策立案に少しでも貢献できるような研究を行い、その成果を積極的に情報発信していくことを念頭においています。

若輩者で至らない部分があるかと思いますが、皆様方のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。